

平成 28 年度評価結果を踏まえた改善策を
反映させた平成 29 年度普及指導計画書
(抜粋)

①施策体系	2. 安全・安心で優れた青森県産品づくり (2) 高品質・低コスト化に向けた生産・流通体制の強化							
②課題名	2 「青天の霹靂」の生産拡大とブランド化の推進 (H28～30年度)							
③対象名	青森農協「青天の霹靂」生産者部会 (59名)、 青森県米穀集荷協同組合「青天の霹靂」作付生産者部会 (4名)							
④指導チーム	藤田副室長、◎斉藤 (仁) 総括主幹、○山本主査、齋藤 (力) 総括主幹、下山主査、中野技師							
⑤対象の現状と課題	<p>(現状)</p> <p>水稻品種「青天の霹靂」は、平成26年産米で参考品種ながら青森県初の「特A」評価を取得した。東青管内では青森市で平成27年度に20名、25haで本格作付が始まり、出荷全量が出荷基準をクリアした。平成28年産は、出荷基準である玄米タンパク質含有率6.4%以下の達成率は99.3%で、高い水準を維持したが、生産目標である6.0%以下の達成率は76.5%で前年を下回った。平成29年度以降も作付者及び面積の増加が見込まれ、良食味・高品質米生産の維持に向け、全作付者に対する指導徹底が必須である。</p> <p>このため、「東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチーム」により、活動工程表に基づいて生産者部会と関係機関と連携し、栄養診断による追肥指導やリモートセンシング技術を活用した適期刈取指導等を行っていく必要がある。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培・出荷基準の周知徹底 (H28～30) ・生産目標の達成 (H28～30) ・プロジェクトチームにおける役割分担の明確化と意識統一 (H28) 							
⑥目標及び実績	項目	現状		28年度	29年度	30年度		
	生産目標達成率(数量) (玄米蛋白含有率6.0%以下)	97%(H27)	目標 実績	100% 76.5%	100%	100%		
	「青天の霹靂」作付け面積	25ha(H27)	目標 実績	90ha 90ha	120ha	150ha		
	生産者部会を含めた指導体制の確立(工程表作成)	なし(H27)	目標 実績	作成 作成	—	—		
⑦活動計画	指導事項	活動手法・手段・時期等						
	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培・出荷基準の周知徹底 ・生産目標の達成 ・プロジェクトチームにおける役割分担の明確化と意識統一 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培基準等説明会の開催 (10、2月) ・栽培日誌の確認 (7、10月) ・栽培計画の確認 (3月) ・育苗巡回指導及びほ場確認 (4～6月) ・実証ほの設置 (5月、5か所) ・実証ほにおける現地検討会の開催 (7、9月) ・ほ場選定及び施肥設計指導 (1～3月) ・連絡会議の開催 (5、8、11、3月) ・生産・販売懇談会 (12月) <p><旨さ確実「青天の霹靂」特Aブランド米生産体制強化事業></p>						
⑧今後の課題と対応方向								

①施策体系	2. 安全・安心で優れた青森県産品づくり (1) 市場ニーズや地域特性に応じた農林水産物の生産振興					
②課題名	6 市場ニーズ拡大に対応した高品質ももの生産推進 (H28～29年度)					
③対象名	つがる弘前農協桃部会 (98名)、津軽みらい農協もも生産協議会 (津軽もも生産部会53名、尾上一般果樹部会15名、黒石地区もも栽培研究会11名：計79名)、相馬村農協もも生産者(11名)					
④指導チーム	○前田副室長、野呂主幹、◎福土主幹、近藤技師					
⑤対象の現状と課題	<p>(現状)</p> <p>当地域のももについては、りんご農家の経営安定・向上を図る有望品目として位置づけ、生産者組織、農協、市町村等関係機関と連携して生産指導等の支援を行っている。これまでの取り組みにより、管内農協における生産者が増え、川中島白桃を主体に栽培面積、生産量が年々増加し、また、市場からは8月～9月の期間を通じてさらなる出荷を求める強い要望がある。</p> <p>しかし、現状の生産量とあかつき、川中島白桃が主体の品種構成では市場側の要望に十分な対応ができない状況であり、さらに、各農協では取扱量の増加により、集出荷作業が過密になってきている。</p> <p>このため、生産量の拡大と新たな有望品種の導入が課題となっており、また、選果作業の集中緩和に向け、選果前果実の一時冷蔵保管等を取り入れた選果作業システムの構築等が必要となっている。</p> <p>平成28年度は、主要作業の時期毎(摘蕾・摘花・摘果・適期収穫)にポイントを踏まえた栽培講習会を開催して生産者の栽培技術の高位平準化を図ったが、収穫前に降水量が多かったことや台風接近の影響で収穫が早まったことにより基準糖度の規格割合が大幅に低下したことから、高品質ももの生産に向けて適期収穫を徹底させる必要がある。また、管内各地で凍害による若木の枯死が目立つようになってきたことから、凍害防止技術の普及に取り組む必要がある。</p> <p>有望品種(なつっこ、まどか、だて白桃、さくら白桃)については、管内においても良品生産が可能であることを確認したので、今後導入を誘導して収穫作業の平準化を図っていく必要がある。また、予冷保管技術の試験結果を踏まえ、各農協の現有りりんご冷蔵庫の有効活用に向けて、予冷期間と果実品質の関係について再検証することが求められている。</p> <p>(課題)</p> <p>課題ア 高品質ももの生産拡大 (H28～29)</p> <p>課題イ 新たな有望品種の作付推進 (H28～29)</p> <p>課題ウ 生産拡大に対応した集出荷体制の充実 (H28～29)</p>					
⑥目標及び実績	項目	現状		28年度	29年度	
	管内農協のもも出荷量	27年度 248t	目標 実績	280 t 263 t	300 t	※ つがる弘前農協、津軽みらい農協、相馬村農協の合計値
	川中島白桃の糖度測定規格のうち基準糖度(11%)以上の規格割合	25～27年度平均値 83.5%	目標 実績	80%以上 69.9%	80%以上	※ つがる弘前農協、津軽みらい農協の平均値
⑦活動計画	指導事項	活動手法・手段・時期等				
	<ul style="list-style-type: none"> 適期収穫、病害虫防除(特にせん孔細菌病対策)、凍害防止対策の徹底に向けた支援 有望品種(まどか、なつっこ、だて白桃、さくら白桃)の品種特性の把握と周知 集出荷体制の充実に向けた一時冷蔵保管試験による実証 	<ul style="list-style-type: none"> 中南地域もも生産推進連絡会議の開催(6月、12月、3月) 栽培講習会の開催(4月、5月、6月、7月、8月、2月) 凍害防止展示圃の設置(11月～3月) 有望品種導入に向けた方向付け(6月、12月、3月) 品種展示ほの設置、生育・果実品質調査(4月～9月) 品種展示ほにおける現地検討会の開催(6月、8月) 各農協の現有りりんご冷蔵庫の有効活用に向けた検討(6月、12月、3月) りんご研究所、農協との連携による選果前果実に関する試験(9月) <p><県重点枠事業：市場ニーズ拡大に対応した中南地域高品質もも生産推進事業></p>				
⑧今後の課題と対応方向						

①施策体系	2 安全・安心で優れた青森県産品づくり (2) 高品質・低コスト化に向けた生産・流通体制の強化					
②課題名	1 経営所得安定対策のフル活用を目指す水田農業の確立 (H27～H29)					
③対象名	農事組合法人くらし (126名)、倉石北部地区水稲営農組合 (15名)、北鎗営農組合 (39名)、階上そば振興委員会 (9名)、南郷そば生産組合 (中野そば倶楽部 (15名)、荒谷そば生産組合 (4名)、生産者 (28名))、市川地区大豆転作営農組合 (81名)					
④指導チーム	腰巡副室長、◎一戸主幹、川島主幹、坂川主査、○岡山技師					
⑤対象の現状と課題	<p>(現状)</p> <p>米価下落や生産数量目標が年々減少している下で、今後も水田農業を維持するためには、転作作物から収益を得ることが重要となる。</p> <p>管内で面積が増加した飼料用米は、助成金が数量払いとなるため、生産者は多収を目指しつつ、同時に低コスト生産とする必要がある。当管内の五戸町の生産者は、従前から水稲直播栽培に取り組んできたが、雑草害等により安定した収量を確保することができなかった。平成28年度は他の直播栽培に比べ雑草を抑制しやすい「鉄コーティング直播」の取組が増加したこと、きめ細かな技術支援が必要となっている。</p> <p>小麦や大豆を経営の柱に位置づけている生産組織もあるが、雑草や病害虫の多発等により生産が不安定であることが課題となっている。このため、栽培技術の確立による安定生産をすすめ、生産組織の経営の安定化につなげる必要がある。</p> <p>そばは、平成26年度まではほとんどが等外に格付けされていたが、国の助成を得るためには、1、2等に格付けされる必要があり、品質の向上が課題となっている。このため、従来はおざなりになっていた肥培管理等の基本技術の徹底を促す必要がある。</p> <p>また、対象の生産組織の経営の維持が重要となることから、新たに、経営分析を含め組織の運営に関する課題を設定する。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直播栽培における収量の高位平準化 (H27～H29) ・小麦、大豆の収量増加、品質確保 (H27～H29) ・そばの品質確保 (H27～H29) ・組織の経営改善の支援 (H29) 					
⑥目標及び実績	項目	現状		27年度	28年度	29年度
	直播栽培収量 (各組織平均 kg/10a)	516	目標	520	520	540
			実績	451	525	
	小麦の全刈収量 (kg/10a)	152	目標	180	270	300
			実績	262	289	
	大豆の坪刈収量 (各組織平均 kg/10a)	249	目標	270	280	300
		実績	242	158		
そばの等級	全量規格外	目標	全量等内	全量等内	全量等内	
		実績	全量等内	全量等内		
経営分析の実施	未実施	目標	—	—	2組織	
		実績	—	—		
⑦活動計画	指導事項	活動手法・手段・時期等				
	直播栽培の技術向上支援	<ul style="list-style-type: none"> ・直播栽培展示実証ほの設置 (5月～10月) ・巡回による個別指導 (5月～10月) ・課題解決に向けた個別検討実施 (12月～2月) 				
	小麦の収量増加、品質確保	<ul style="list-style-type: none"> ・生育観測ほの設置、生育調査、収量調査 (4月～7月) ・鶏糞堆肥施用展示実証ほの設置 ・幼穂形成期及び止葉抽出期の追肥指導 (4月～5月) ・生育状況、病害虫防除、収穫適期の情報提供 (4月～7月) 				

	<p>大豆の収量増加、品質確保</p> <p>そばの品質確保</p> <p>組織の経営改善の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生育観測ほの設置、生育調査、収量調査（5月～11月） ・雑草、害虫防除展示実証ほの設置（5月～11月） ・生育状況、病虫害防除、収穫適期の情報提供（6月～10月） ・生育観測ほの設置、生育調査、収量調査（7月～10月） ・品質確保に向けた土壌分析による施肥及び適期は種指導（6月～7月上） ・生育状況確認のための現地検討会（9月） ・次年度に向けた成績検討会（2月） ・経営分析の実施（12月～2月） ・経営改善に向けた提言の実施（2月）
<p>⑧今後の課題と対応方向</p>		

①施策体系	2 安全・安心で優れた青森県産品づくり (1) 市場ニーズや地域特性に応じた農林水産物の生産振興							
②課題名	3 シャインマスカットの産地育成(H28～H32)							
③対象名	シャインマスカット作付者(30名)							
④指導チーム	齋藤総括主幹、鈴木主幹、◎白川主幹、○坂本主任専門員、太田技師							
⑤対象の現状と課題	<p>(現状)</p> <p>西北地域は、鶴田町、板柳町を中心としたぶどうスチューベンの産地であるが、近年、消費者に人気のシャインマスカットを導入する生産者が見られている。また、つがる市を中心に、産地市場が主導で、水稻育苗ハウスを活用したシャインマスカットの作付けが拡大している。</p> <p>しかし、シャインマスカットの生産には無核化处理が必要など、スチューベンに比べ高度な技術が必要で、高品質果実生産には栽培技術の普及が急務である。</p> <p>また、シャインマスカットは全国的に生産量が伸びており、所得を確保するためには他県産との競合を避け、12月～1月販売を見据えた長期販売のための貯蔵技術の確立が必要である。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地化に向けた栽培技術の早期普及(H28～H32) ・長期貯蔵技術の確立(H28～H29) 							
⑥目標及び実績	項目	現状		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	シャインマスカットの栽培面積	H27 1.0ha	目標(当初)実績 1.9	1.5ha(1.5)	3.0ha(2.0)	3.5ha(2.5)	4.0ha(3.0)	5.0ha(4.0)
	長期貯蔵技術の確立	未確立	目標実績	実証実施	実証	確立		
⑦活動計画	指導事項	活動手法・手段・時期等						
	1 生産・販売体制の整備	<p>○生産・販売等戦略の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西北の大粒系ぶどう産地育成会議の開催(5月、2月) ・生産技術研修会の開催(12月) 						
	2 無核良品果栽培技術の早期普及と長期貯蔵技術の確立	<p>○栽培技術の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル実証ほの設置(5～12月) 露地、雨よけ、無加温ハウス(各2か所) ・生育調査及び巡回指導(4～3月、随時) ・栽培講習会の開催(5月～11月) 無核化处理、摘粒・袋かけ、収穫等 ・先導的農家の育成(5月～12月) 記帳等 ・栽培マニュアルの作成 <p>○長期貯蔵技術の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実貯蔵(10～1月)※JA冷蔵庫利用 ・果実分析(10月、11月、12月、1月) ・求評会の開催(12月) <p><県民局重点事業：西北の大粒系ぶどう産地育成事業></p>						
⑧今後の課題と対応方向								

①施策体系	5 未来を切り拓く多様な経営体の育成 (4) 農山漁村の女性が活躍できる環境づくり							
②課題名	4 産直組織等を核とした西北産品の販売拡大 (H26～H30)							
③対象名	西北管内の産直組織 (33組織) 西北津軽産直ネットワーク協議会 (18組織)、農山漁村女性起業家 (71経営体)							
④指導チーム	三浦総括主幹、○菊池主幹、神主幹、對馬主幹、◎木村主査							
⑤対象の現状と課題	<p>(現状)</p> <p>西北管内には農林水産物の産直組織が33組織あるが、会員の高齢化や担い手不足、産直施設においては品不足と集客力不足等が課題となっている。その対策として、高齢者を対象とした集荷システムを活用した品揃えの確保による販売拡大に取り組み産直組織 (中泊町) があることから、モデル組織として活動支援し、その成果を西北管内に波及させ、販売力強化を図る。</p> <p>また、産直組織と女性起業家のネットワークを活かした販路の拡大や経営力アップ及び女性起業家等の育成に向けた個別指導と研修機会の確保が必要である。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集荷システムの定着による販売力の強化 (H29～30) ・産直組織の連携強化による販路の拡大 (H26～30) ・女性起業家の育成 (H26～30) 							
⑥目標及び実績	項目	現状		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	集荷システム参加農家数	0戸 (H28)	目標 実績				10	15
	販売交流による連携取引品の拡大	0品 (H25)	目標 実績	2 2	4 7	10 12		
	女性起業家による新商品開発	0品 (H25)	目標 実績	2 3	4 8	10 11	13	15
	女性起業家の確保	64経営体 (H25)	目標 実績	66 67	68 69	70 71	73	75
⑦活動計画	指導事項	活動手法・手段・時期等						
	<p>集荷システムの定着による販売力の強化 (中泊町モデル組織)</p> <p>産直組織の連携強化による販路の拡大</p> <p>経営発展に向けた女性起業家の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集荷システムの円滑な推進に向けた情報提供及び巡回指導 (4～3月) ・西北地域産直組織による情報交換会の開催 (5月) ・西北津軽産直ネットワーク協議会の販売交流に向けた連絡調整及び巡回指導 (4～12月) ・販路拡大に向けた情報提供 (4～3月) ・女性起業家による新商品開発と経営改善にむけた情報提供及び巡回指導 (6～2月) ・女性起業活動ステップアップに向けた研修会の開催 (6、9、12月) <p><女性起業育成・フォローアップ事業></p>						
⑧今後の課題と対応方向								

①施策体系	2. 安心・安全で優れた青森県産品づくり (2) 高品質・低コスト化に向けた生産・流通体制の強化						
②課題名	4 乳質改善共励会の活性化による酪農経営支援 (H29～31年度)						
③対象名	管内酪農家138戸 (JAゆうき青森100戸、JA十和田おいらせ30戸、JAおいらせ8戸)						
④指導チーム	太田副室長、◎伊藤主幹、○松浦主査						
⑤対象の現状と課題	<p>(現状)</p> <p>飼料費等の資材が高止まりにあるなか、乳量や乳質の安定、繁殖成績の向上、自給飼料生産の強化等は、現在の酪農経営にとって重要な課題である。</p> <p>JAゆうき青森では、年間の生乳出荷データと牛舎等の現地審査を基に、乳質改善共励会(以下、共励会)を長年に渡り実施し、近年、その動きは近隣農協でも広まりつつある。</p> <p>一方、共励会で得られた有益な情報は、共励会の審査以外では有効活用されていないのが実情であり、乳質改善共励会の活性化とその活動を通じた酪農経営支援の必要とされている。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳質改善共励会活性化に向けた取組 (H29～31) ・牛群検定及び生乳出荷データ等、各種データを活用した改善に向けた支援 (H29～31) ・関係機関が連携した総合的な酪農経営支援の継続 (H29～31) 						
⑥目標及び実績	項目	現状		29年度	30年度	31年度	
	乳質(体細胞)Aランク率の向上	Aランク割合 46%	目標 実績	47%	48%	49%	
	個体平均乳量の向上	管内平均 8,077kg	目標 実績	8,200	8,350	8,500	
⑦活動計画	指導事項	活動手法・手段・時期等					
	乳質改善共励会の活性化に向けた支援	<ul style="list-style-type: none"> ・乳質改善共励会審査データを活用した課題の整理 (4～5月) ・共励会の理解に向けた情報紙の発行 (5、7、9、11、1月) ・共励会活性化に向けた打合せの実施 (年2回) 					
	牛群検定及び生乳出荷データ等、各種データを活用した飼養管理の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・飼養管理改善に向けた巡回 (随時) ・牛群検定実施者および新規取組者に対する技術支援 (随時) ・酪農後継者、従業員等に対する技術習得に向けた支援 (随時) 					
	関係機関による酪農経営支援体制の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有および情報交換 (随時) ・現場の状況に応じた連携 (随時) ・支援体制の継続に向けた検討会の実施 (年3回) 					
⑧今後の課題と対応方向							

①施策体系	2. 安全・安心で優れた青森県産品づくり (2) 高品質・低コスト化に向けた生産・流通体制の強化						
②課題名	6 野辺地葉つきこかぶの産地力向上 (H28～29年度)						
③対象名	JAゆうき青森野菜振興会こかぶ部会 (42人)						
④指導チーム	今川副室長、◎古川主幹、○秋田技師、乙部主幹、山下主幹、田島技師						
⑤対象の現状と課題	<p>(現状)</p> <p>上北管内では、野辺地町を中心に夏季冷涼な気候を活かし、こかぶの産地が形成されているが、夏季の猛暑やキスジノミハムシの多発生等により、夏場の品質低下や収量減少が顕著となっている。</p> <p>また、比較的軽量で低コストで栽培できるが、生産農家が減少してきており産地の維持が懸念される。</p> <p>「野辺地葉つきこかぶ」として地域団体商標登録したが、知名度が低い上に、高品質で生食に向く食材として認知されていない。</p> <p>そこで、「野辺地葉つきこかぶ」の産地維持・拡大のため、猛暑に適応した品種選定、病虫害防除対策、適期収穫等の生産技術の確立による夏季の高品質安定生産、「こかぶ塾」による担い手育成等により産地力を高める必要がある。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猛暑に適応した品種選定、病虫害防除対策、適期収穫等の生産技術確立による夏季の高品質安定生産 (H28～29) ・産地を維持・拡大するため「こかぶ塾」設置によるの担い手の育成 (H28～29) 						
⑥目標及び実績	項目	現状		28年度	29年度		
	夏期(8～9月)専用品種の作付面積の増加	1ha	目標 実績	1.5ha 1 ha	2.0ha		
	新規作付者の育成	0人	目標 実績	1人 0人	2人		
⑦活動計画	指導事項	活動手法・手段・時期等					
	<p>夏季における高品質安定生産の確立</p> <p>新規作付者を含めた担い手の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・展示ほの設置による夏季専用品種選定 (5月～9月) ・病虫害防除展示ほ設置による防除技術の定着 (7月～9月) ・夏季の高温障害対策に関する先進地事例研修 (9月) ・先進地視察研修 (1月～2月) ・優良農家を講師として経営研修 (1月～2月) ・こかぶ高品質安定生産のための冬期研修会 (1月～2月) 					
⑧今後の課題と対応方向							

①施策体系	5 未来を切り拓く多様な経営体の育成 (3) 地域を支える生産基盤の有効利用と組織の体質強化						
②課題名	2 担い手育成と異業種との連携促進による直売所の活性化 (H29～30年度)						
③対象名	下北管内農林水産物直売所 (14組織)、新規就農者・就農希望者 (17名)、野菜農家 (150戸)、女性起業家 (10起業)						
④指導チーム	◎小野総括主幹、○沼田総括主幹、○坂本主査、成田主幹、森田技師、立崎技師						
⑤対象の現状と課題	<p>(現状)</p> <p>平成27年度～28年度の2か年で下北産直「元気アップ」応援事業を実施した結果、直売所の販売額向上や新たな担い手の育成・確保につながった。</p> <p>下北地域は、農産物以外にも水産物や加工品等が豊富であるが、販売できる期間が限られている。また、小規模直売所が多く、多様な消費者ニーズに応えることが困難である。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業・水産加工・食品製造事業者などの異業種との連携の機会・取組の創出 (H29～30) ・新規就農者や漁業者・女性起業など、直売所の新たな担い手の育成 (H29～30) ・地元住民や観光客等に愛される直売所づくり (H29～30) 						
⑥目標及び実績	項目	現状		29年度	30年度		
	異業種とのマッチング数	0 (H28)	目標 実績	3	6		
	下北産直マルシェ参加直売所数(延べ)	0 (H28)	目標 実績	7	14		
	直売所の新たな担い手の育成・確保	18 (H28)	目標 実績	20	25		
⑦活動計画	指導事項	活動手法・手段・時期等					
	異業種との連携の機会・取組の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・産直活性化プロデュース会議の開催 (6月、7月、11月、2月) ・直売所と異業種との連携・マッチング支援 (6月、7月、2月) ・先進事例調査の実施 (1月) ・下北マルシェの開催 (7月、8月、9月) ・下北産直フォーラムの開催 (10月) 					
	直売所の新たな担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所向けの農林水産物の生産・加工等の新たな取組を支援する「チャレンジフィールド」と商品を試験販売する「チャレンジマーケット」の設置 (6月～11月) 					
	地元住民や観光客に愛される直売所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・販売員等を対象とした「接遇、POP作成」研修会の開催 (6月、2月) ・「健康料理レシピ」の作成研修会 (7月、10月) 					
⑧今後の課題と対応方向							